In a previous paper (1957), I referred Streptogyneae to Arundoideae-Arundiformes group, but this systematic treatment is apparently inadequate. As already described by Jacques-Felix (1955) and others, the leaf structure of *Streptogyna* is quite similar to that of bamboos. Streptogyneae should be ascribed to Pharoideae sensu Tateoka (1957). The morphological features shared by *Streptogyna* do not represent an opposition to this systematic reference: for example, the lodicules of *Streptogyna* show similar features to those of bamboos. (Fig. 1 was drawn by the materials collected at Dulva Kanda [ca. 4,000 feet] in Ceylon last year.)

Literature

Bentham, G. (1881) Journ. Linn. Soc. **19**: 14–134. Church, G. L. (1949) Amer. Journ. Bot. **36**: 155–165. Hackel, E. (1887) in Die Naturlichen Pflanzenfamilien. Hubbard, C. E. (1956) Hook. Ic. Pl. Tab. 3572. Jacques-Felix, H. (1955) Journ. Agric. Trop. **2**: 423–430. Metcalfe, C. R. (1956) Bot. Mag. Tokyo **69**: 391–400. Stebbins, G. L. (1956) Amer. Journ. Bot. **43**: 890–905. Tateoka, T. (1957) Journ. Jap. Bot. **32**: 275–287.

□ Albert N. Steward: Manual of Vascular Plants of the Lower Yangtze Valley, China (1958) 総クロース B5 p. 621 (索引共) 口絵楊子江下流略図，挿図 510.

本書は Oregon 州立大学腊葉館主任である Steward 氏の著で，最近東京で印刷されたものであって，米国中国その他の腊葉館・研究所・大学その他の協力によりでき上ったもので，中国中部楊子江下流域に自生のものはもちろん，栽培されている高等植物 196 科 2028 種 (羊歯 170，裸子 35，離弁 925，分弁 487，単子葉 411) を収録，種ごとに産地・生育場所・分布 (栽培のものは原産地) が記入してあり，510 種が図説され，各属や種の現行中国名が漢字で取入れられている。科ごとに科の特徴・属や種の検索表があり，イネ科の場合には Agnes Chase が科の概説を書いている。巻末には命名者名のフルネーム・生死の年・国籍などが表示され，別に術語の解釈とその中国用語表があって編集上の注意が行届いている。いまこの本を手にして見ると，この地方はあまり種類に富んだ所といえなく，数だけでは日本の一県にほぼ相当する。さらに外来のものを除くと一層少ない感がする。しかしこの地区は中国のもっとも対外的交渉の多い所であるから，この地方のフロラをまとめた本書は中国人にはもちろん外国人にも興味がある。また外国の種類が相当にあることはこの地方が多年にわたり交通の多かったための影響と思われ，この地方の文化史とも関係の浅くないことや，それらが生育しうる風土であることを思わせる。また本書の内容は分類学的にオリジナルを含んでいるとはいえないが，編さんの動機なり企画なりは良心的であり，近年わが国で続出する科学振興に便乗した地方植物誌と異なる点が興味深い。印刷所は　東京都千代田区富士見町 1-10 国際文献印刷株式会社。(久内清孝)